

生成 AI を活用した業務ツール作成の進め方

～思いどおりのツールを作るための 7 つのステップ～

作成者：ChatGPT 無料版

作成日：2026/08/10

はじめに

生成 AI を使えば、プログラミングの経験がなくても、業務を効率化する Web ツールや簡単なアプリを作成できるようになりました。しかし、「〇〇を作ってください。」だけでは、期待どおりの結果にならないことが少なくありません。生成 AI を上手に活用するポイントは、作りたいツールを業務の流れに沿って整理し、順番に伝えることです。

本資料では、業務ツールを作成する際の基本的な進め方を紹介します。

Step0 何を作るか整理する

まず最初に考えることは、「どのようなプログラムを作るか」ではなく、どの業務を改善したいかです。

例

- ISBN から書誌データを取得したい
- 入館データを分析したい
- 図書館統計を自動集計したい
- ILL データから購入候補図書を探したい

次に、

- 入力データ
- 出力したい結果

を書き出します。

この整理ができれば、生成 AI への指示が非常に分かりやすくなります。

Step1 利用環境を伝える

生成 AI は利用環境によって作成方法を変えます。

例えば、

- Windows11 で利用する
- インストール不要
- HTML と JavaScript で作成

- ブラウザだけで動作する
- CSV ファイルを読み込む

など、実際の利用環境を最初に伝えます。

Step2 入力データと出力結果を伝える

次に、「何を入力して、何を出力したいか」を具体的に伝えます。

例（入館データ分析）

入力

- 入館データ（CSV）

項目

- 利用者 ID
- 入館日時
- 退館日時
- 身分

出力

- 年間入館者数
- 月別入館者数
- 曜日別入館者数
- 時間帯別入館者数
- 滞在時間の分布
- グラフ表示
- CSV 出力

入力・出力を具体的に伝えるほど、期待どおりのプログラムが作成されやすくなります。また、実際に使用する CSV や Excel ファイルをアップロードすると、データの項目名や形式を生成 AI が確認できるため、より適切なプログラムを作成しやすくなります。

【注意点】

実際の業務データに個人情報や機密情報が含まれる場合は、そのまま生成 AI へアップロードせず、ダミーデータや匿名化したデータを使用してください。

Step3 画面イメージを伝える

画面の構成も文章や簡単な図で伝えると、完成イメージが近づきます。

例

CSV ファイル選択

[ファイルを選択]



[分析開始]

分析結果

- 年間入館者数
- 月別グラフ
- 曜日別グラフ
- 時間帯別グラフ
- 滞在時間分布

[CSV ダウンロード]

手書きのイメージでも十分です。

Step4 ツールを作成してもらう

ここまで整理できたら、生成 AI へ「Web アプリを作成してください。」と依頼します。
一度で完成しなくても問題ありません。

Step5 実際に動かして確認する

生成されたプログラムを実際に動かし、

- 起動するか
- ファイルが読み込めるか
- 集計結果は正しいか
- グラフが表示されるか

などを確認します。

Step6 エラーや改善点を伝える

思ったとおりに動かなかった場合は、

- エラーメッセージ
- スクリーンショット
- 思っていた動作

をそのまま生成 AI へ伝えます。

生成 AI はエラー内容から原因を推測し、修正版を提案してくれます。

Step7 少しずつ機能を追加する

一度に完成を目指す必要はありません。

例えば、

CSV 読込
↓
集計
↓
グラフ表示
↓
CSV 出力
↓
検索機能追加

というように、少しずつ改善していく方が品質の高いツールになります。

生成 AI を活用する際のポイント

生成 AI には、それぞれ得意な処理があります。

プログラムが得意	生成 AI が得意
• CSV 読込 • 集計・計算 • グラフ表示 • API との連携 • CSV・Excel 出力	• 文章の意味理解 • キーワード抽出 • 分類・グループ化 • 要約・説明文作成 • 推薦理由の作成

それぞれの得意分野を組み合わせることで、より実用的な業務ツールを作成できます。

おわりに

生成 AI は、一度で完成したツールを作るものではありません。「作る → 試す → 修正する」を繰り返すことで、少しずつ業務に合わせたツールへ育てていきます。大切なのは、プログラミングの知識ではなく、「何をしたいか」を具体的に整理し、生成 AI へ順番に伝えることです。この考え方は、図書館業務だけでなく、さまざまな業務改善に応用できます。